

令和6年度 第1回 まつやま人口減少対策推進会議 総会

【日 時】令和6年5月24日（金）

10：00～11：30

【場 所】松山市役所別館6階 第3・4委員会室

会 議 次 第

1. 松山市への提言について
2. 報 告
 - (1) 専門部会の活動について
 - (2) 監事監査の結果について
3. 第2期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り及び次期総合戦略について
4. 意見交換
(持続可能な地域づくりのために、当会議の役割やあるべき姿など)

提 言 書

令和 6 年 5 月 2 4 日

松山市長 野志 克仁 様

まつやま人口減少対策推進会議
座長 仁科 弘重

次期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について

当会議は、「ライフデザインプロジェクト」「企業の生産性アッププロジェクト」の専門部会を設置し、調査・研究を行った結果、次期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に関し、次のとおり提言します。

まつやま人口減少対策推進会議は、人口減少対策についての調査研究や、松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証など、人口減少対策を民間団体主導で推進してきた。

そのようななか、令和6年4月1日時点での松山市の推計人口は、50万人を下回る数字となった。松山市が平成28年1月に策定した「松山創生人口100年ビジョン」では、2110年までの推計値が示されており、2025年までには50万人を下回ることが予測されていたものの、人口減少が進んでいることを改めて印象付けるものとなった。

今後、松山市が持続可能なまちづくりを進めていくうえで、人口減少対策は最重要課題であり行政と民間がより一層連携し、それぞれが主体的に取り組んでいく必要がある。

そこで、人口減少対策推進会議の活動である「ライフデザインプロジェクト」「企業の生産性アッププロジェクト」をとおして見えてきた課題を示すとともに、次期総合戦略の策定にあたり提言を行う。

1. 専門部会活動で見えてきた課題

(1) ライフデザインプロジェクト

- ・人口減少社会においては、今後社会の中心を担う若者が、松山市で働き暮らしたいと希望を持てることや、松山市以外で働き暮らすことを選んだとしても、様々な形で松山市と繋がれることが重要である。
- ・そのためには、若者が自己成長や自己発揮できる機会を創出するため、若者が主体となる機会や場所を提供するとともに、地元企業や地域社会が繋がり支える体制とそれを主導する人材が求められる。

(2) 企業の生産性アッププロジェクト

- ・人口減少に伴う経済の縮小や人出不足の状況の中、地域の経済を維持するためには、AIをはじめとしたデジタルの活用により地域全体の産業の生産性を向上させるとともに、松山らしい地域資源を活用した産業の振興や起業を促進していくことが重要となる。
- ・そのためには、松山エリア内での人や企業の連携はもちろん、他都市の人や企業を積極的に取り込み、市内全体の生産性向上、産業振興が求められる。

2. 提言

- ・人口減少対策は、結婚や出産の希望を叶えられるような支援、地域経済の活性化や新たなイノベーションの創出、若者の意見を受け入れ実現する機運の醸成など、複合的に取り組むことが求められる。
- ・また、人口が減少していくことによる影響や、それに対応したまちづくりを検討するとともに、市民が幸福感や暮らしやすさを感じられるよう、松山に関わる全ての人が共通の目標に向かって、一緒にまちづくりに取り組むことが重要である。
- ・そのためには、複雑化・多様化する地域課題に対応でき、地域に新たな付加価値を生み出せる枠組みを多様なステークホルダーで構築し、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要である。

(令和 5 年度) まつやま人口減少対策推進会議 専門部会事業報告書

代表団体名称	特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ
副代表団体名称	愛媛県若年者就職支援センター
活動テーマ	若者が、自分たちのワークとライフの理想を思い描き発信する ～認定スピーカーからライフキャリアを学ぶライフデザインプロジェクト～
活動趣旨（本市の人口減少対策の現状、課題等）	<p>少子高齢化の急速に進む中、労働力人口の減少が地方では最重要課題となっている。1999 年以降、共働き世帯が専業主婦世帯を上回る現状にありながら、結婚出産を機に離職する女性は 6 割を超えている。男は仕事、女は家庭というような性別役割分業意識も根強く、社会で次世代を育てるには実情が伴っていない。原因の一つとして、若い世代の受けてきたキャリア教育の現状として、中学～大学まで、職業理解を中心とした「ジョブキャリア教育」は実施するが、市民であることを理解し、働き方や暮らし方を考える「ライフキャリア教育」は少ない状況である。「個人が職業生活・家庭生活・市民生活等全生活で経験する様々な立場や役割を遂行する活動」がキャリアであり、若者が子育てをしながら地域に定着し、次世代を社会全体で育てる風土を根付かせるには、本プログラムを大学・行政・地域が連携し、実施する必要がある。</p> <p>また、愛媛県では転出者数が転入者数を上回る「転出超過」が続いており、とりわけ若年女性人口の流出が大きな問題となっている。そこで、若年女性の流出減・流入増のための方策を検討するため、若者（大学生や企業の若手従業員）が、働く場の多様性という観点を、ジェンダーという側面から学ぶ機会を持ち、女性の継続就業を重要視する企業を見る視点を養う。あわせて、両立する先輩社会人（ワークライフバランス認定スピーカー 以下、WLB 認定スピーカー）の体験談を聞き、地元で家庭を築きながら働くことを、将来の選択肢の一つとして具体的にイメージしてもらおう。</p> <p>WLB 認定スピーカーとなる人や輩出する企業にとっても、自身のキャリアを振り返る機会となり、若者との触れ合いが地域への関心につながり、相互理解が深まる。</p> <p>この取り組みを地域広報で広く市民に知ってもらうことにより、社会全体で若者の仕事と暮らしの両立を応援する機運を醸成することを目的とする。</p>
活動の項目	<p>○調査・研究活動 推進会議規約第 3 条(1)</p> <p>○普及・啓発活動 推進会議規約第 3 条(2)</p>
活動内容（本市の実態や効果的な施策に関する調査・検証、人口減少対策推進のための取組の周知・啓発等）	<p><ライフデザイン出張講座> 愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学、の 4 大学にて各 2 講座、企業に勤務する共働き経験者（中堅人材）2 名（異業種）に登壇いただき、価値観への折り合いのつけ方、仕事と暮らしの両立について話をしていたいただき、気づきの共有を行う。</p> <p><学生ボランティアスタッフと若手社員の協働> ワークライフ・コラボにボランティア登録している学生にプロジェクトへの参画を募る。応募学生と既存学生を主軸に、自主グループとして活動する。また、社会人となった卒業生を含む、企業の若手社員にも参画を呼び掛け、学生への助言を行う。活動内容は、働く場の多様性について、ジェンダーという側面からと、WLB 認定スピーカーの体験談から学ぶ研究活動を行う。</p> <p><次世代を育てる人材の発掘/ワークライフバランス認定スピーカー（以下、WLB 認定スピーカー）の活動> この活動で、大学の授業やイベントに登壇した発掘した人材をベースに、スピーカーとして活動を行うことができる認定制度をワーコラボと愛 work が設置した。</p> <p>目的は、次世代を育てる企業人材を増やすことと、企業の中堅社員のアップデートの機会の創出とし、スピーカー自らが、ライフキャリア教育の推進者となる。</p>

	<p>認定を受けた WLB 認定スピーカーは、双方事業や専門部会活動などで幅広く活動するとともに、情報共有や研修に参加し、継続して次世代育成を実施する。また、継続して、多様な選択肢をもつ重要性を伝える WLB 認定スピーカーを発掘する。</p>
実施状況	<p>○ライフデザイン出張講座の実施状況 ◇2023 年度実施校 6 校・受講者数計 592 名／登壇した WLB 認定スピーカー延べ 12 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 月 15 日 松山大学経営学部「キャリア形成論」(35 名) の枠で実施 ・7 月 4 日 聖カタリナ大学「キャリアデザイン」(231 名) の枠で実施 ・7 月 10 日 松山東雲女子大学「キャリア論」(7 名) の枠で実施 ・9 月 28 日 人間環境大学「心理学とキャリア」(39 名) の枠で実施 ・10 月 28 日 愛媛大学理学部「新入生セミナー-B」(240 名) の枠で実施 ・11 月 27 日 松山東雲短期大学現代ビジネス学科「女性とキャリア」(40 名) で実施 <p>○学生ボランティアスタッフと若手社員の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティア 11 名 (男性 3 名、女性 8 名／松山大学 8 名、愛媛大学 3 名) が、働く場の多様性について、ジェンダーという側面からと、WLB 認定スピーカーなどの社会人の体験談から学ぶ研究活動を行った。 <p>◇活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザインを学ぶ「インターンシップ」 8 月 28 日～9 月 1 日 ・ライフデザインプロジェクト・キックオフミーティング 8 月 29 日 ・共働きインターンシップ 12 月 1 日、3 日 ・ジェンダー座談会 vol.1～vol.3 11 月 22 日、12 月 22 日、1 月 13 日 ・就活座談会 2024 年 1 月 27 日 ・成果発表会 (コムズフェスティバル) 2 月 3 日 ・NPO 法人ピアリンク in えひめ代表田中菜さんに学生の伴走支援でご協力いただいた。 <p>添付資料：ボランティア募集チラシ、ジェンダー座談会チラシ、就活座談会チラシ、コムズフェスティバルチラシ</p> <p>○「次世代を育てる人材の発掘/ワークライフバランス認定スピーカーの活動」の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度 3 名が新規に認定を受け、登録者は 21 名となった。 ・市内 6 大学でのライフデザイン出張講座に延べ 12 名 (各大学男女 1 名ずつ) 登壇した。 ・他、ライフデザインプロジェクトの学生イベントや、県内で実施された複数の少子化対策事業にて、延べ 28 名が登壇またはゲストスピーカーとして参加した。 ・メールマガジンを不定期に発行 (2 か月に 1 回程度) 主な内容は、活動の報告や、イベントの告知、登壇者の募集など ・認定スピーカー更新講習を実施 9 月 25 日 ・認定スピーカーの HP を作成 (確認作業中 3/14 現在) <p>http://wlb-speaker.worcolla.com/</p>
構成メンバー	ワークライフ・コラボ、愛媛県若年者就職支援センター、愛媛県中小企業家同友会、松山市公共職業安定所
事業期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日
事業に要した経費	1,701,217 円 (自主財源 1,217 円)

VOLUNTEERS NEEDED

学生ボランティア

募集中!



このプロジェクトでやること

- 就職座談会
- SDGs勉強会（ジェンダー平等）
- 社会人インタビュー動画制作
- 行政へ提言

☆学生さんのメリット

企業や地域とつながるプロジェクトに参画することで、自分自身の今後の参考になるだけでなく、県内企業の社会人と出会え、就活に向かう力を身につけることができます。

就活から始まるミライ
創造設計！
発射台高い位置から
のぞもう！



Let's Join Us!

運営：NPO法人ワークライフ・コラボ
（まつやま人口減少対策推進会議）

問合・連絡先：lifedesign.worcolla@mail.com
インスタグラムのDMからでもご連絡可能です！

instagram：lifedesign.worcolla→



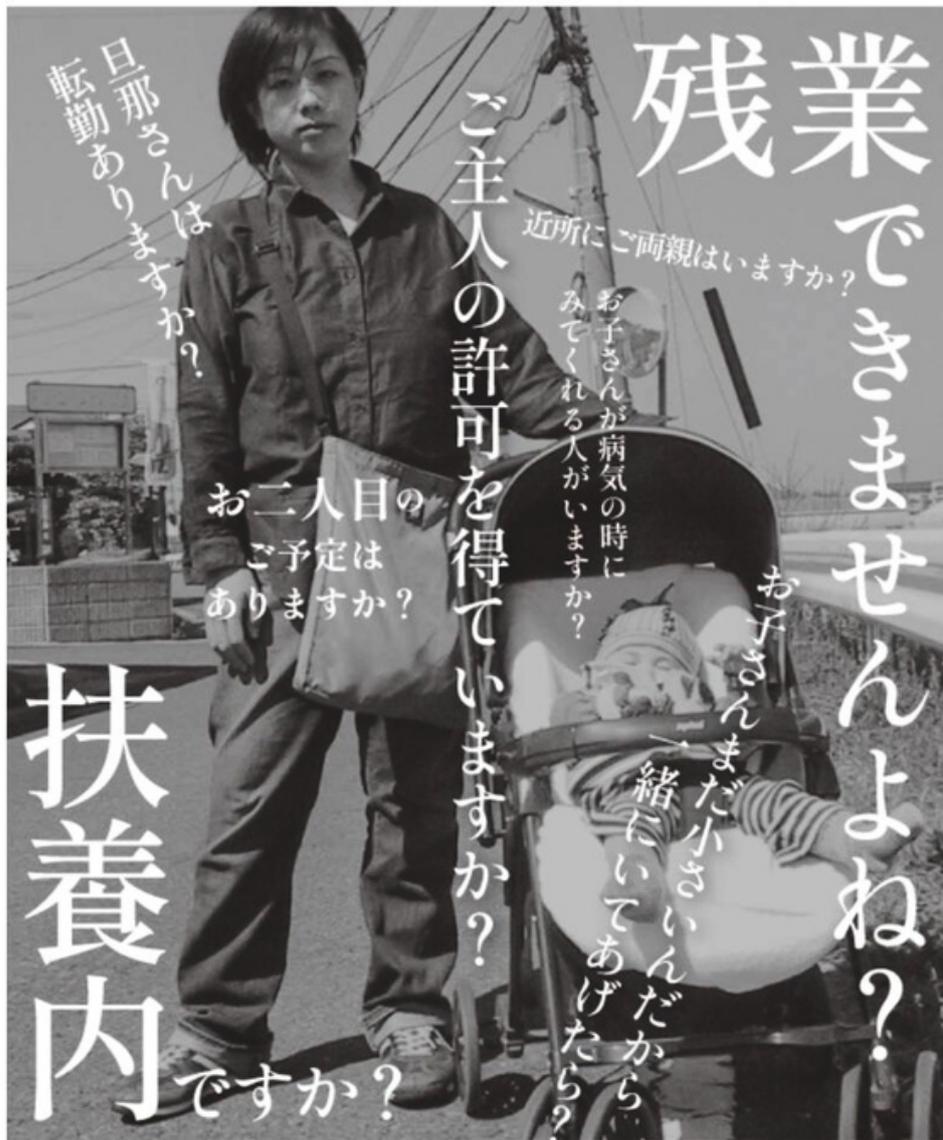
2023
7/22

2022年ジェンダーデザイン・コンテスト最優秀賞受賞しました

■ デザイン ㊤ 2023年7月16日 ㊦ 2023年7月22日

12.22

19:00 PM



面接官からの質問は、夫には決してされない質問でした

ライフデザインプロジェクト ジェンダー座談会vol.2

主催：ライフデザインプロジェクト
(まつやま人口減少対策推進会議)

日時 19:00 - 20:30

場所 オンライン (Zoom)

問合せ・連絡 lifedesign.worcolla@mail.com

申込はインスタグラムで

DMで



トークゲスト：
グラフィックデザイナー /
山下風花さん

／ シュウカツを一段上からとらえる ／

大学生による、大学生のための 就活座談会

就活から始まるミライ創造設計！

就職が決まった大学4年生がメンターとなり、
センパイ社会人（企業の採用担当経験者）も迎えて
就活や将来への不安・悩みを少しでも解消できるよう応援！
就活生に嬉しいコーナーが盛り沢山！
気軽にご参加ください♪

悩みを持つ就活生集合！

- ✓ 業界選びはどうやって？
- ✓ ガクチカ・自己PRの作成方法の秘訣は？

働くリアルを語る＆聞く！
先輩就活生×社会人

聞いてみたい！ 社会人の先輩トーク

- ✓ 学生時代とのギャップは？
- ✓ 仕事の悩みを相談できる人はいるの？
- ✓ 辞めたいって思ったことは？

4回生と人事
になんでも聞
いちゃおう！

1人でも、友
達との参加で
も大歓迎！



お申込みはこちら！

参加希望の方はフォームまで！



日時：1月27日(土)14:00 - 16:00 (仮)

場所：松山大学樋又キャンパス1F

アカデミックソーシャルコモンズ

対象：松山市内の大学生

費用：無料

主催：ライフデザインプロジェクト（まつやま人口減少対策推進会議）大学生スタッフチーム

問合・連絡先：lifedesign.worcolla@gmail.com

Instagram：lifedesign.worcolla

インスタグラムのDMからでもご連絡可能です！



大学生と考える！「まつやまを働きやすく暮らしやすい”まち”にするには」

参加費 **無料** / 定員 50名

2/3 (土) 午前 10時 - 12時

場所・男女共同参画推進センター



コムズ / 4F 視聴覚室
松山市三番町6丁目4-20

対象者 / 大学生、企業の人材育成・採用担当者
次世代育成に関心のある方

働
僕
人
く
ら
口
暮
が
減
ら
少
す
と
思
い
社
は
描
会
く
で



大学生の提言を聞いて
ください。

内 容

- オープニング
- 人口減少社会の現状と課題について
- 大学生の成果発表
- 交流座談会
- まとめ

発表テーマ



- テーマ① 男性育休インタビュー
- テーマ② 共働きお宅訪問インターンシップ
- テーマ③ ジェンダー座談会
- テーマ④ 就活座談会

※仕事と子育てを両立する先輩社会人（ワークライフバランス認定スピーカー）も5名参加！
※大学生からの提言に対して感想を募る交流座談会を行います。

お申し込み・お問い合わせ



第25回コムズフェスティバル



- お申し込みはこちらのフォームから
- ③番をしてね



大学生が発表します！

ライフデザインプロジェクトでは、若者が、子育てと仕事の両立を選択肢の一つとして前向きにとらえることができるように、家庭生活や子育てもキャリアと感ずることができる体験プログラムを行っています。大学生の気づきから生まれた提言を、ぜひ聞きに来てください。

※ライフデザインプロジェクトとは、まつやま人口減少対策推進会議の専門部会事業です。



(令和 5 年度) まつやま人口減少対策推進会議 専門部会事業報告書

代表団体名称	松山商工会議所
副代表団体名称	愛媛県法人会連合会
活動テーマ	企業の生産性アッププロジェクト
活動趣旨 (本市の人口減少対策の現状、課題等)	<p>第 2 期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標③「魅力ある仕事と職場をつくる」の成果指標である「市内総生産 1.6 兆円の維持」を達成するためには、労働力人口の減少が避けられない中で、飛躍的に企業の生産性を向上させる必要がある。</p> <p>企業の生産性向上の切り口としては、IoT や AI といった先進技術の利活用による第 4 次産業革命を成し遂げることが求められる。企業や従業員に人口減少を認識してもらい、あわせて、生産性の向上を進めていく必要がある。こうした中で、コロナクライシスにより、劇的に企業の ICT 利活用が進んでおり、これをチャンスと捉えて、一層の推進を図る。</p>
活動の項目	○調査・研究活動 推進会議規約第 3 条(1)
	○普及・啓発活動 推進会議規約第 3 条(2)
活動内容 (本市の実態や効果的な施策に関する調査・検証、人口減少対策推進のための取組の周知・啓発等)	<p>令和 4 年度に実施した、デジタルイノベーション実践塾で取り上げた、デジタルを経営に効果的に実装するためのデザイン経営について、セミナーなどで普及、啓発を図るとともに、企業や中心商店街において、専門家による個別の支援を行う。また、令和 5 年 10 月からスタートするインボイス制度では、企業の会計業務のデジタル化が求められることから、個別の企業に対して、専門家や IT 関連業者と連携しながら、クラウド会計の導入支援を行い、バックオフィス業務全般の省力化と効率化をサポートする取り組みを行う。</p> <p>また、企業や地域のデジタル化を進めるため、「松山地域における高速情報通信技術活用研究会」を設置し、ポスト・コロナにおける企業や地域のデジタル活用に関する現状把握や、新たな高速通信技術の研究、企業経営のみならず、中心市街地活性化や観光振興におけるデジタル技術のあり方などを研究し、企業の生産性向上と経営力強化、市場の発掘による販路開拓につなげるほか、提言等を行う。</p>
進捗状況	<p>【松山管内 ICT 利活用調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査機関 令和 5 年 8 月～3 月 ・調査対象 松山管内の企業 約 6,000 社 ・調査内容 企業経営における ICT ツールの利活用状況と効果 <p>【クラウド会計に関する導入支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内 容 インボイス制度への対応など会計を中心としたバックオフィス業務に関するシステム導入 ・相談期間 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日 ・導入件数 延べ 256 件

<p>進捗状況</p>	<p>【デザイン経営に関する個別相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 令和5年7月11日(月) ・内 容 デザイン経営及びデジタル化の支援に関する現状把握と意見交換 ・訪問先 (株)まちづくり松山 道後商店街振興組合 三津浜商店街 水口酒造株式会社 ・訪問者 EnLinx Partners LLC DEO 尾中 泰 (株) ビタミン 高松裕美 高梨大輔 ・日 時 令和6年3月19日(火) ・内 容 デザイン経営及びデジタル化の支援に関する現状把握と意見交換 ・訪問先 (株)まちづくり松山 道後商店街振興組合 三津浜商店街 ・訪問者 EnLinx Partners LLC DEO 尾中 泰 【卸売業向けデジタルセミナー】 ・日 時 令和6年2月2日(金) 15:30～17:00 ・場 所 当会議所 5階 大ホール・オンライン ・参加者 27名 ・テーマ 「業務効率化・生産性向上を実現!! デジタル活用セミナー」 ・講 師 株式会社 Ideal Works 代表取締役・中小企業診断士 井手 美由樹 氏 【松山地域における高速情報通信技術活用研究会】 ・日 時 令和6年2月19日(月) 13:30～15:00 ・場 所 当会議所 4階 第二会議室・オンライン ・参加者 立石座長他13名 ・内 容 設置要綱について ・講 話 テーマ Beyond 5G について 講 師 総務省 技術政策課 革新的情報通信技術開発推進室長 清重 典宏 氏 テーマ 次世代光通信基盤構想「IOWN」の取り組みについて 講 師 西日本電信電話株式会社 技術革新部 IOWN 推進室 担当部長 小山 晃広 氏
<p>構成メンバー</p>	<p>松山商工会議所、愛媛県法人会連合会</p>
<p>事業期間</p>	<p>2023年4月1日 ～ 2024年3月31日</p>
<p>事業に要した経費</p>	<p>1,329,083円(内 自主財源 29,083円)</p>
<p>備考</p>	

監 査 報 告 書

令和6年4月18日

まつやま人口減少対策推進会議
座 長 仁科 弘重 殿

まつやま人口減少対策推進会議

監 事 田 中 禎 之



私監事は、まつやま人口減少対策推進会議の令和5年度の財産及び会計並びに業務執行状況について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告します。

記

1. 監査方法の概要

私監事は、まつやま人口減少対策推進会議の事業実施主体である各団体の職員及び松山市の事務局職員から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要に応じて説明を求め、業務執行の妥当性を検討しました。

また、各団体の職員及び事務局職員に聞き取りを行いながら、会計帳簿並びに関係書類を閲覧し、計算書類の正確性を検討しました。

2. 監査の結果

まつやま人口減少対策推進会議の財産及び会計並びに業務執行状況に関しては、不正の行為はなく、かつ法令及び規約に違反する重大な事実は認められません。

以 上

令和5年度 まつやま人口減少対策推進会議（全体）

収支決算書

1. 収入の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	差引	摘要（積算基礎等）
松山市補助金	3,000,000	3,000,000	0	
自主財源	100,000	30,300	▲ 69,700	ワークライフ・コラボ負担分（1,217円） 商工会議所負担分（29,083円）
			0	
計	3,100,000	3,030,300	▲ 69,700	

2. 支出の部

区分	予算額	決算額	差引	摘要（積算基礎等）
事業費 （補助金分）	1,700,000	1,700,000	0	専門部会活動費 （ライフデザインプロジェクト）
〃 （自主財源分）	0	1,217	1,217	
事業費 （補助金分）	1,300,000	1,300,000		専門部会活動費 （企業の生産性アッププロジェクト）
〃 （自主財源分）	100,000	29,083	▲ 70,917	
計	3,100,000	3,030,300	▲ 69,700	

まつやま人口減少対策推進会議 専門部会（ライフデザインプロジェクト）

令和5年度 収支決算書

1. 収入の部

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
補助金	1,700,000	1,700,000	0	松山市補助金
自主財源	0	1,217	1,217	ワークライフコラボ
			0	
合 計	1,700,000	1,701,217	1,217	

2. 支出の部

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
報償費	80,000	84,000	4,000	・5000円×15名 ・3,000円×3名
旅費	90,000	31,710	▲ 58,290	コーディネーター、学生スタッフ交通費
需用費	220,000	42,307	▲ 177,693	
消耗品費	0	5,689		コピー用紙、文具、ケーブル、資料ケース
会議費	0	8,746		講師と打ち合わせ、就職座談会やジェンダー研修でのお茶菓子
食糧費	0	10,386		講師用飲物代、イベント時飲料等
印刷製本費	0	17,486		講座資料印刷、チラシ作成、印刷、事業担当者名刺
役務費	30,000	25,694	▲ 4,306	
通信運搬費	0	1,409		携帯電話（3か月分）
支払手数料	0	24,285		オンライン配信システム手数料 22,110 振込手数料 2,175
使用料及び賃借料	30,000	26,400	▲ 3,600	パソコンリース料 2400円×11か月
企画管理費	1,250,000	1,491,106	241,106	
人件費	0	1,080,106		コーディネーター等人件費 765,600 法定福利費 314,506
委託費	0	411,000		ホームページ設計、メンテナンス111,000 学生サポート300,000
合 計	1,700,000	1,701,217	1,217	

まつやま人口減少対策推進会議 専門部会（企業の生産性アッププロジェクト）
令和5年度 収支決算書

1. 収入の部

（単位：円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
補助金	1,300,000	1,300,000	0	松山市補助金
自主財源	100,000	29,083	▲ 70,917	
合 計	1,400,000	1,329,083	▲ 70,917	

2. 支出の部

（単位：円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
報償費	440,000	527,920	87,920	講師謝金、個社支援謝金 座長謝金 @22,000
需用費	110,000	168,236	58,236	
印刷製本費	110,000	168,236	58,236	ICT利用に関する調査票等
役務費	504,000	86,912	▲ 417,088	
通信運搬費	504,000	86,912	▲ 417,088	ICT利用に関する調査票等
手数料	0	0	0	
委託料	291,000	430,705	139,705	ICT利用に関する分析業務 アルバイト代
使用料及び賃借料	55,000	115,310	60,310	会場使用料 5Gルータ使用料 等
合 計	1,400,000	1,329,083	▲ 70,917	

第2期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り(令和4年度実績)

【基本目標①】つながる未来を応援する(少子化対策)

成果指標	基準値	目標値	実績				
			R2	R3	R4	R5	R6
合計特殊出生率	1.40 (H30)	1.58 (R6)	1.30 (R1)	1.26 (R2)	1.30 (R3)	—	—

(主な取組)

- ・「まどんな応援宣言事業所」の周知及び募集を行い、女性の活躍促進の機運醸成を図った
- ・婚活イベントの実施や子ども医療助成の対象年齢拡大等、出会いから子育てまでの支援を実施
- ・こどもの居場所づくりとして、児童クラブの時間延長やヤングケアラー対策を実施

【基本目標②】松山への定着と新しい人の流れをつくる(移住定住対策)

成果指標	基準値	目標値	実績				
			R2	R3	R4	R5	R6
社会移動数 (転入数－転出数) ※計画期間の平均	△74人 (H27～R1 の平均)	均衡以上	272人 (R2年)	290人 (R2～R3)	33人 (R2～R4)	—	—

(主な取組)

- ・マツワカや久谷カレッジなど、若者による情報発信の実施、まちづくりへの参画に取り組んだ
- ・移住フェアへの出展、オーダーメイド型移住体感ツアー等の実施など、移住者の増加を図った
- ・SNS等を活用し空き家バンクの周知を行い、空き家の活用、移住者の住まいの確保を支援

【基本目標③】魅力ある仕事と職場をつくる(地域経済活性化)

成果指標	基準値	目標値	実績				
			R2	R3	R4	R5	R6
市内総生産	1.6兆円 (H28)	1.6兆円	1.6兆円	1.7兆円	1.6兆円	—	—
観光客推定消費額	788億円 (H30)	828億円	577億円	523億円	645億円	—	—

(主な取組)

- ・台湾での観光PRや各種プロモーションなど、定期路線再開やインバウンドなどに備えた取組を実施
- ・製造業など既存企業の拡大や、IT関連企業、事務センターの新規誘致など積極的な企業誘致を実施
- ・新規就農者への営農指導や、就農直後の生活が不安定な時期な農家の営農活動支援を実施

【基本目標④】住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)

成果指標	基準値	目標値	実績				
			R2	R3	R4	R5	R6
中央商店街の 来街者数	105,620人 (H30)	107,120人	82,930人	84,456人	106,520人	—	—
今後も松山市に 住み続けたいと 思う市民の割合	86.0% (H30)	88.5%	83.0%	82.7%	82.3%	—	—

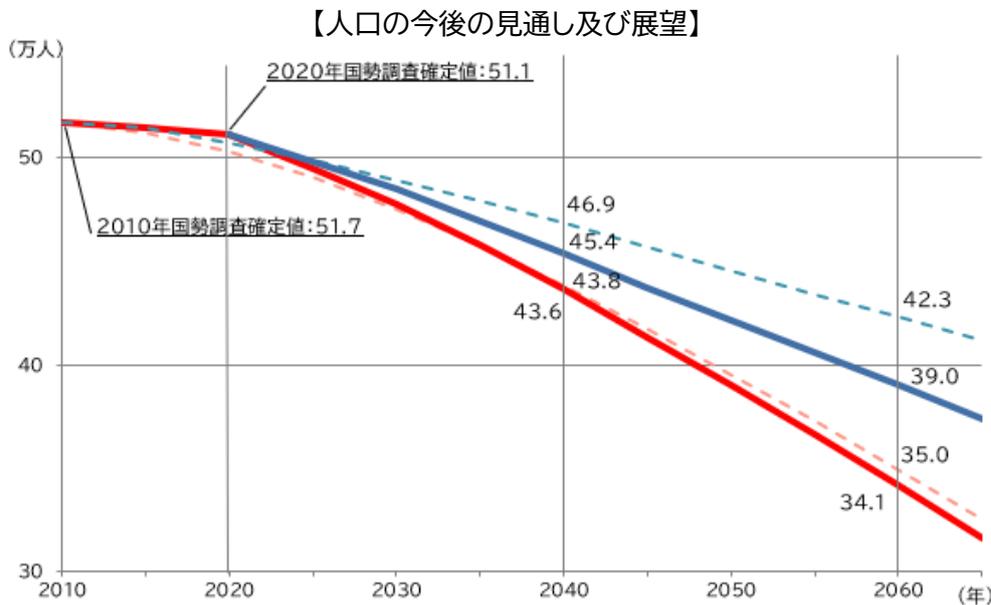
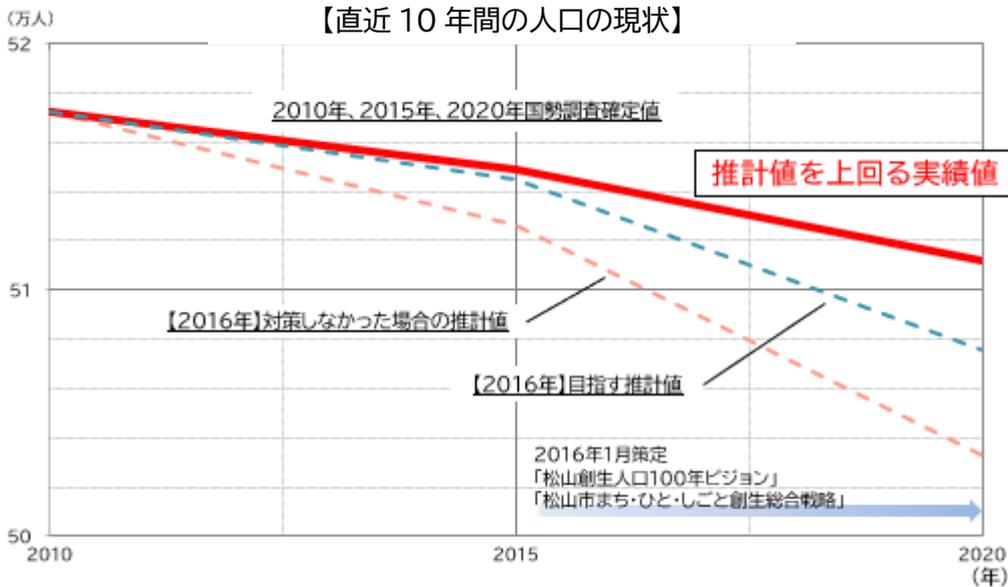
(主な取組)

- ・にぎわいのある都市空間の形成に向け、松山市駅前広場やJR松山駅前周辺の整備を進めた
- ・次世代エネルギー型のまちに向け、太陽光発電システムの設置やEVの導入などに対する支援を実施
- ・切れ目のない防災教育を行う「全世代型防災教育」や「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」を実施

松山市の人口の現状と今後の見通し及び展望

松山市の人口の現状は、2016年に策定した「松山創生人口100年ビジョン」で示す推計値を上回る結果となっていますが、今後、現在の傾向が続いた場合に、2020年の51.1万人から2060年には34.1万人まで減少することが予想されます。

そこで、少子化などの人口減少問題への対策に取り組み、合計特殊出生率の回復や社会増減数の均衡以上の達成を実現した推計値を設定します。



点線は 2016 年 1 月策定「松山創生人口 100 年ビジョン」の推計値

※基準値は 2010 年国勢調査値 51 万 7 千人

赤色点線：国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠した推計値

青色点線：合計特殊出生率を 2030 年 1.75、2040 年以降 2.07 とし、社会増減を 2020 年以降均衡とした推計値

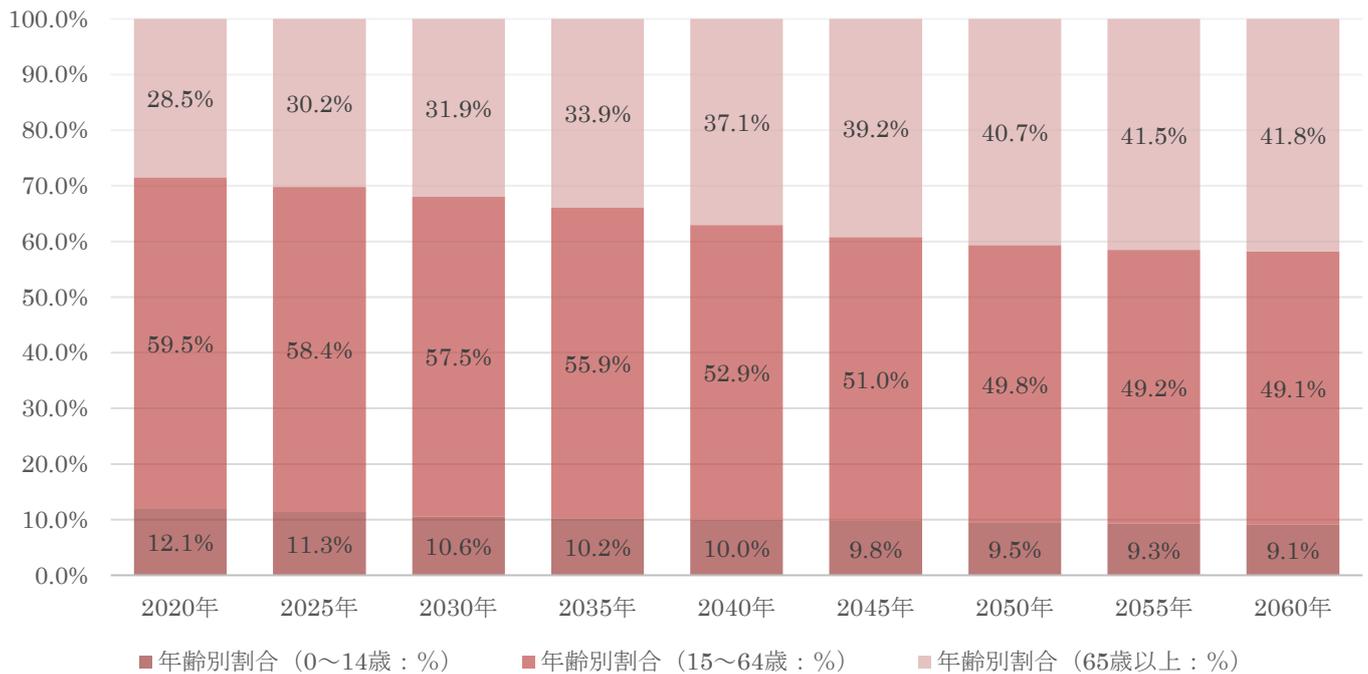
実線は以下の条件で算出した推計値

※基準値は 2020 年国勢調査値 51 万 1 千人

赤色実線：合計特殊出生率は「2021 年人口動態統計」（松山市保健所）の値、純移動率は 2021 年 10 月 1 日時点と 2023 年 10 月 1 日時点の住民基本台帳登録者数から算出した値、生存率および 0~4 歳性比は社人研「日本の地域別将来推計人口（2023 年推計）」の値とした推計値

青色実線：有識者で構成される「人口戦略会議」が国へ提出した提言書（2024 年 1 月）の値を基に、合計特殊出生率を 2040 年 1.6、2050 年 1.8、2060 年 2.07 とし、社会増減を国や愛媛県の設定に準じて均衡とした推計値
 ※なお、国が令和 6 年中に「まち・ひと・しごと長期ビジョン」の改訂を予定しており、国の動向に応じて変更することがあります。

【現状を踏まえた推計値(赤色実線)の人口構成】

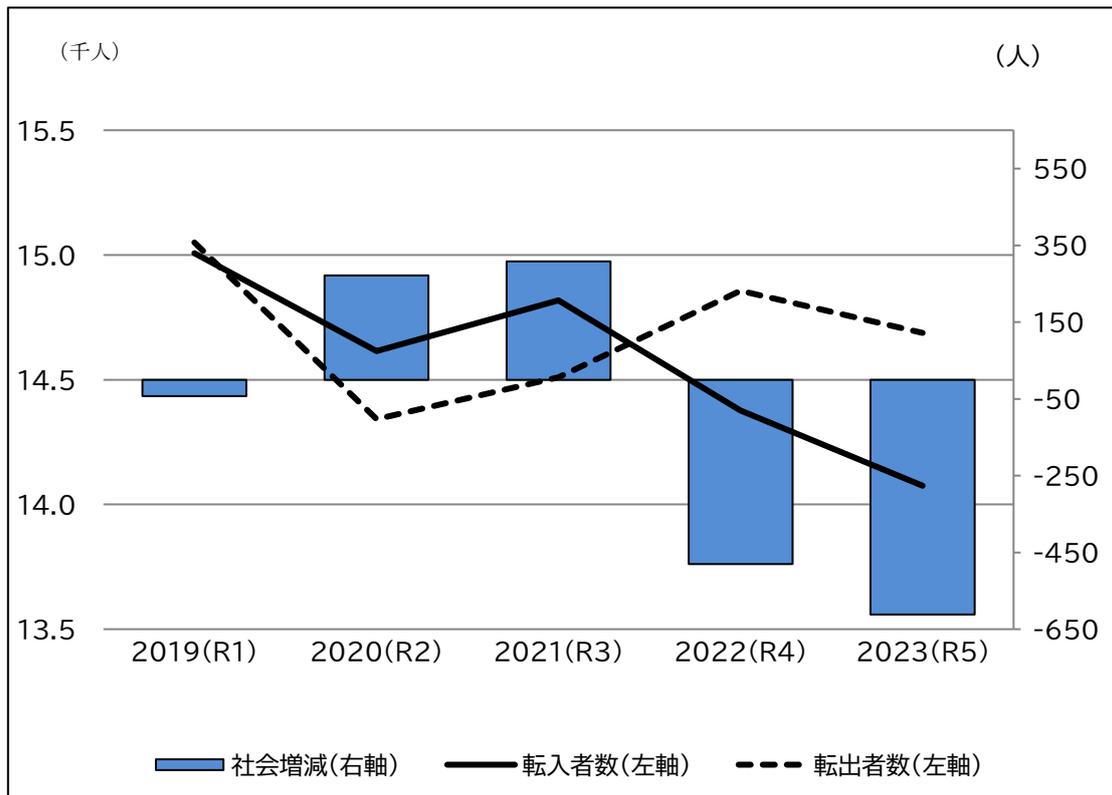


	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(人)	511,192	495,241	477,472	457,975	436,380	413,571	390,441	366,523	341,717
年齢別割合 (0~14歳:%)	12.1	11.3	10.6	10.2	10.0	9.8	9.5	9.3	9.1
年齢別割合 (15~64歳:%)	59.5	58.4	57.5	55.9	52.9	51.0	49.8	49.2	49.1
年齢別割合 (65歳以上:%)	28.5	30.2	31.9	33.9	37.1	39.2	40.7	41.5	41.8

松山市の人口動態について

○社会増減数

- 社会増減数では、令和 2 年から転入超過となっていたが、令和 4 年以降は転出超過に転じた

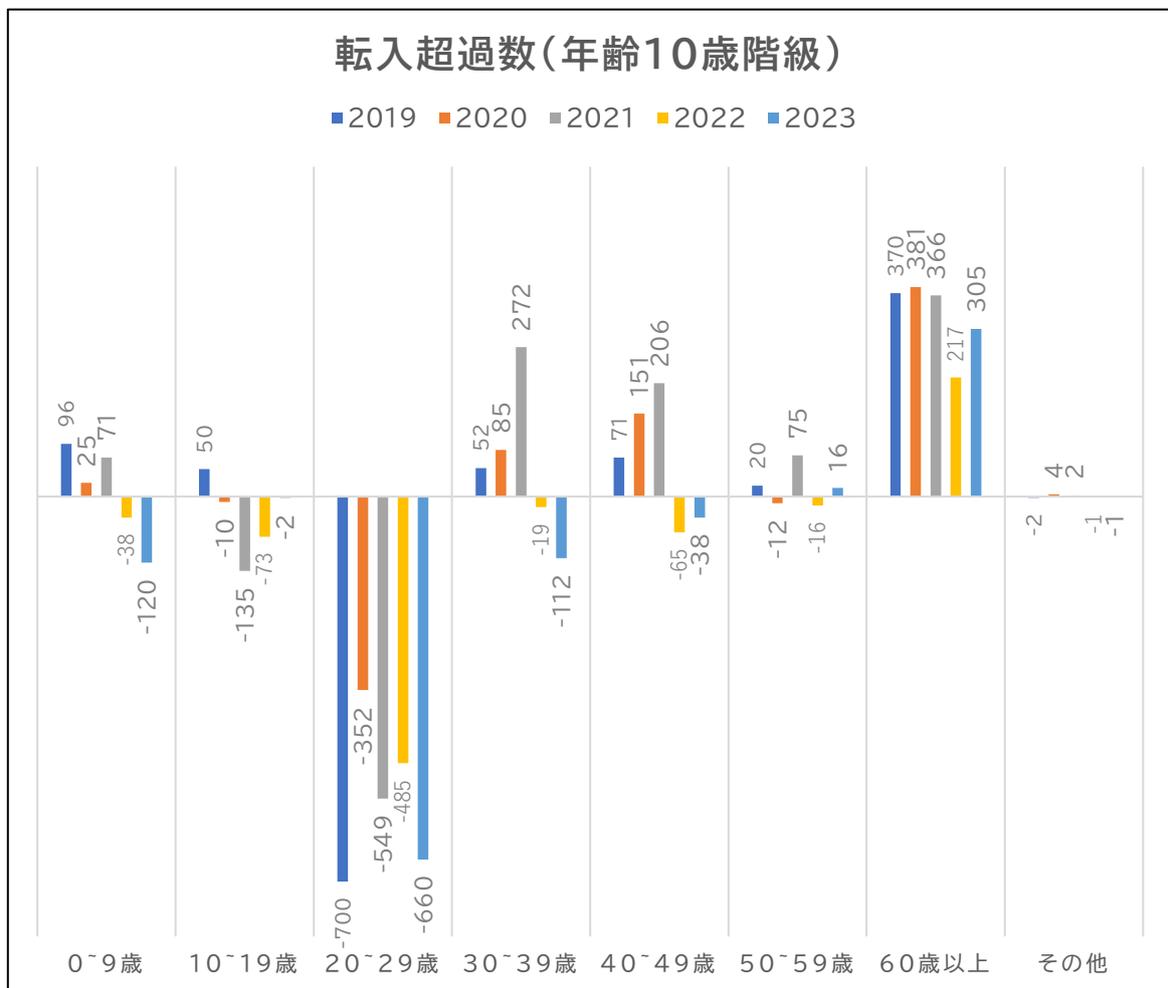


	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)
転入者数	15,007	14,614	14,818	14,377	14,075
転出者数	15,050	14,342	14,510	14,857	14,687
社会増減数	-43	272	308	-480	-612

(人)

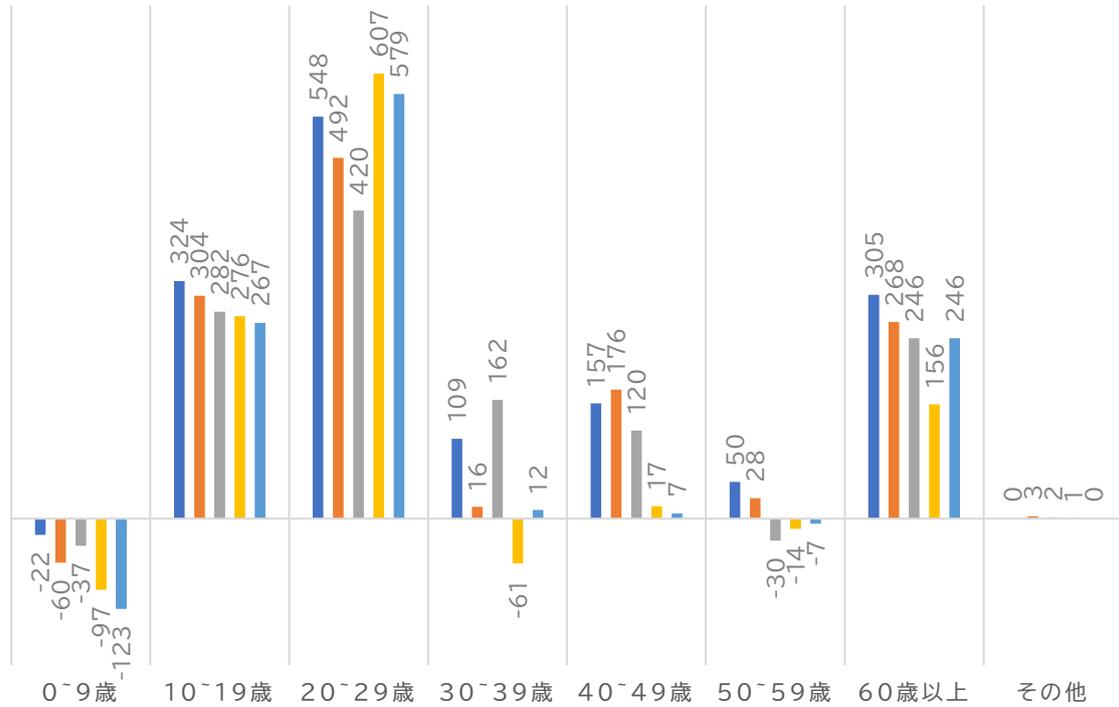
○転入超過数

- 全体でみると 20 歳台は転入超過数がマイナス、30～49歳でもマイナス傾向に転じている
- 県内転入者の状況を見ると、ほとんどの年代で転入超過となっている
- 県外の状況を見ると、10～30歳台でマイナスとなっている



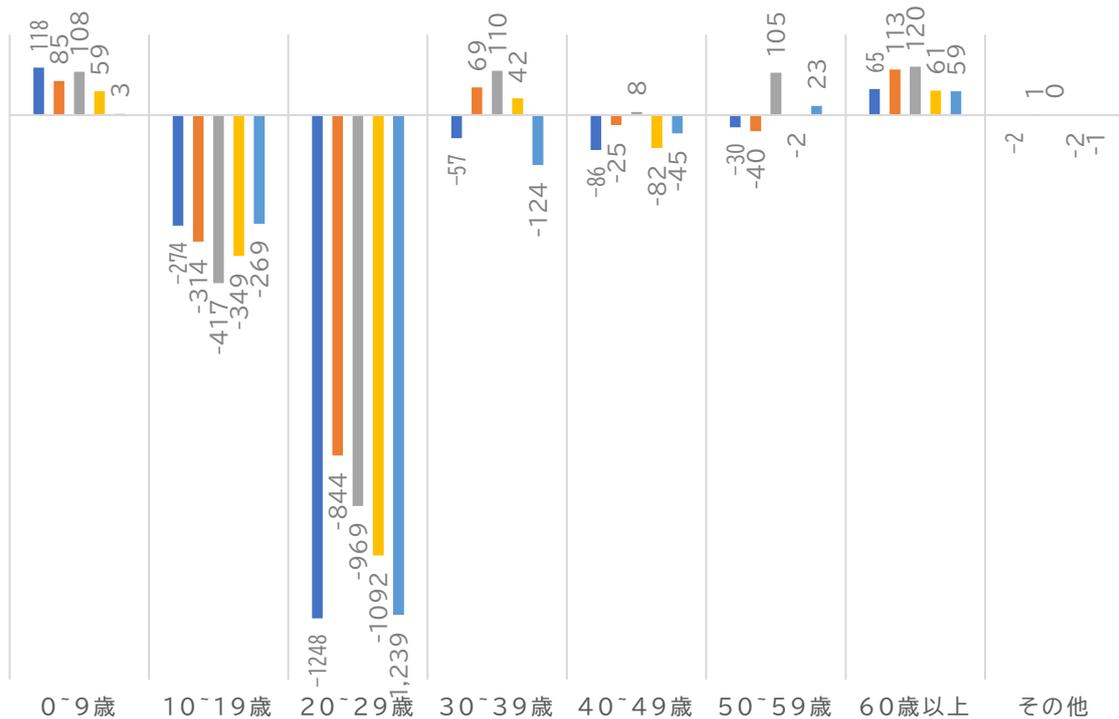
【県内】転入超過数(年齢10歳階級)

■2019 ■2020 ■2021 ■2022 ■2023



【県外】転入超過数(年齢10歳階級)

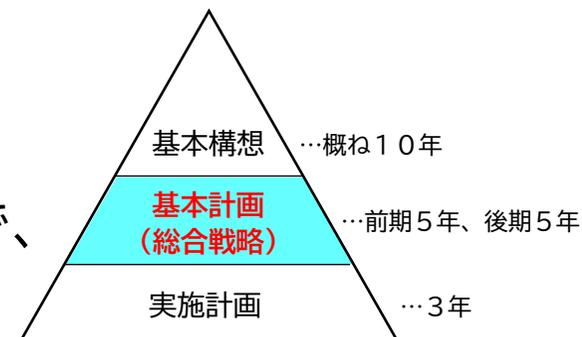
■2019 ■2020 ■2021 ■2022 ■2023



次期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について

1. 松山市総合計画との統合について

総合計画は、本市のまちづくりの方向性を示す最上位計画で、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の三層で構成される。



「基本構想」 将来都市像とまちづくりの理念を明らかにするもので、期間は10年。

「**基本計画**」 基本構想を実現するための施策の内容を体系的に示すもの、期間は5年。

「実施計画」 基本計画で定めた施策を推進するための事業を示すもの、期間は3年。

次期総合計画は、すべての分野で長期的な視点に立った理想の未来像を描き、人口減少対策を最重要事項として策定する。

そこで…



人口減少対策の基本計画である総合戦略と統合して策定し、地方創生をより一層推進していく。

具体的には「**基本計画**」と総合戦略を一体化する。

2. 次期総合戦略策定について

今後、人口減少は少子化と高齢化を伴い、加速していくことが予測される。人口の減少幅を緩和する取り組みを進めるとともに、人口構成の変化に適応しながら、持続可能なまちづくりを進めていくため、次期計画は以下の視点で策定する。

➤ 長期的、分野横断的な視点

変化が激しく予測が困難な時代において、バックカスティングの視点で将来のあるべき姿を描き必要な取り組みを検討するとともに、人口減少に伴い地域課題が複雑化・多様化するなかで、全ての分野において人口減少の視点を取り入れ、対策を行っていく。

➤ デジタルを活用した課題解決や魅力向上

デジタル技術は、地域社会における活動の利便性や生産性を飛躍的に高め、社会課題の解決や地域の魅力の更なる向上に資することが期待される。デジタル技術を活用することで、産業振興や地域経済の活性化のみならず、地域社会全体の変革を実現することが求められる。

➤ 行政と民間がより連携し、地域一丸での課題解決

人口減少に伴い、地方自治体が単独で活用できる資源の縮小が見込まれる一方で、課題は多様化していくことが予想され、民間の力を活用することが必要になる。

そこで、事業所や団体をはじめとした活動主体が、地域の経済や暮らしを支える担い手として連携しながら、本市の持続可能なまちづくりを推進できる体制の構築が重要である。

3. 次期計画策定スケジュール（イメージ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		★ 第1回 総会		★ 第2回 幹事会	★ 第3回 幹事会	★ 第2回 総会						
令和6年度		基本構想 (素案)					基本構想 (議案)			基本計画確定		第7次総合計画 公表
				パブコメ 準備・実施					市議会の議決	広報物の準備		

※令和6年9月頃に第2回総会を開催予定